

流通とSC・私の視点

2011年11月8日

視点(1472)

I Saw All China (その10) !!

— 中国経済と近未来の消費力 —

中国の経済は日本を抜き、アメリカに次いで世界第2位になりました。しかし、中国の人口は日本の人口の10倍であるために、1人当たり所得は10分の1でしかありません。

一般的に、経済の発展と消費の成長は次のようなメカニズムになっています。

- ①第1段階「第1次産業あるいは第2次産業の輸出マーケットによる経済成長の時代」
- ②第2段階「国内インフラ投資（公共インフラと住宅等の生活インフラ）による経済成長の時代」
- ③第3段階「個人所得が向上し、個人消費による経済成長の時代」

以上のように、消費が経済を牽引する第3段階の経済の時代にSCは発展し、この消費を「モダン消費」（モノを買い、モノを消費し、モノを利用し、モノを所有することの連続性に喜びと幸せを感じる消費）と言います。

経済規模と個人消費の関係を示すと次の通りです。

- ①第1段階（プレモダン消費）
経済規模 > 個人消費
（経済は大きい個人消費は小さい段階でマーケットは外需）
- ②第2段階（モダン消費）
経済規模 = 個人消費
（経済規模と個人消費が一致する段階でマーケットは内需）
- ③第3段階（モダン消費末期）
経済規模 < 個人消費
（経済規模を上回って個人消費が発生するバブル経済の段階でマーケットは内需）
- ④第4段階（ポストモダン消費）
経済規模縮小 = 個人消費縮小
（モダン消費が終焉し、消費の縮小が経済を縮小させる、いわゆるポストモダン消費の段階）

現在の中国の経済を為替レートと購買力平価で示すと次の通りです。

		為替レート		購買力平価	
		GDP	1人当たりGDP	GDP	1人当たりGDP
1位	アメリカ	1,466兆ドル	47,284ドル	1,466兆ドル	47,284ドル
2位	中国	588兆ドル	4,382ドル	1,009兆ドル	7,519ドル
3位	日本	546兆ドル	42,820ドル	431兆ドル	33,805ドル

中国に1人当たり消費力は、為替レートでは4,382ドルで、日本の42,820ドルの10分の1でしかありません。ところが購買力平価（同じ生活をするにどれだけの所得で生活できるかの比較で算定したレート）は、中国は7,519ドル、日本33,805ドルと4.5分の1になり、実質的には、中国の消費力は見かけより相当高くなっています。

今、中国は世界の工場としての外需依存から、公共インフラ（道路や上下水道等）や生活インフラ（住宅等の建築事業）への内需へと移っています。しかし、また、第2段階の「経済規模＝個人消費」のレベルまで達していません。

まさに、公共インフラや生活インフラによる不動産バブルを経た後（ミニバブル崩壊の繰り返し状態が続く）に、中所得階級が飛躍的に増大し、消費が経済を牽引する段階となります。それが2011～2030年のモデル消費時代になります。中国はこのまま順調に経済発展すれば、13億人の人口を背景に巨大なモダン消費が発生します。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺⁵

代表 六車秀之